

第1回名古屋城三の丸地区まちづくり構想有識者懇談会の議事要旨

○意見事項①

「地区の特性で深堀が必要な項目」

「他に考えられる地区の特性」

〈井澤座長〉

- ・セットバックなどの公共的空間や道路などの豊かな公共空間をどのように市民や観光客など官庁以外の人に活用してもらうかも考える必要がある。
- ・三の丸は名古屋城天守（城郭建築層塔型）・本丸御殿（書院造）・市役所&県庁（帝冠様式）・市政資料館（ネオバロック&最大の煉瓦造）、市役所西庁舎等（戦後現代建築）・護国神社（神社建築様式）などという年代の違う建物様式が集積しているため、そこに付加価値をつけられると面白いエリアになる。

〈浦田委員〉

- ・地区には働く場所と名古屋城という観光の要素があり、両者の二ーズ、来訪者の属性を把握できたらいい。
- ・文化財である名古屋城や本庁舎等を、座りながら落ち着いて眺めることができる場所があると良い。

〈加藤委員〉

- ・三の丸地区は歴史・文化性を有しているが、官庁街がふたをしてしまっているため、発信力を高めるべき。
- ・文化財を本庁舎として使い続けることの限界を議論すべき。その他の用途で使えば、歴史・文化性を高めることにつながる。

〈鈴木委員〉

- ・広い道路空間を有しており、地区内施設を移動するために新しいモビリティの活用や自動運転を含めた空間の有効活用を検討すべき。
- ・名古屋駅－名古屋城または栄の移動には乗換え抵抗があるため、移動される方が周遊するような仕掛け、また平面的に歩くような仕掛けを検討してほしい。

〈羽田委員〉

- ・三の丸地区で働く人にとって働きやすい観点を意識してはどうか。
- ・重要文化財以外の建物は印象的なものが少ない。今後、庁舎更新がされたときに、建物群としての景観が重要。

〈増田委員〉

- ・地区のそれぞれの特性を縦糸とすると、それらを横糸でつなげて、地区の価値の向上にどうつなげていくかの議論が必要。横糸はレジリエンス、サステナビリティなど。
- ・1610年からレジリエンスが語れるのはすごい。この地区はレジリエンスの観点から、国内外に向けてメッセージとして打ち出していける。
- ・地域としての強靱性、機能継続性を有すれば、地区の価値の向上につながる。

〈吉高委員〉

- ・どの特性にもサステナビリティが関わるため、サステナビリティの観点で掘り下げてほしい。
- ・築年数の古い建物は、熱効率も悪く、カーボンニュートラルの観点からすると不動産の価値も上がっていない。
- ・不動産の価値にはサステナビリティが含まれている。地区のみどりや生物多様性は強みになるのではないか。

○意見事項②

「三の丸でまちづくりを考えていくうえで重要な考え方」

「まちづくり構想を検討していくうえで、考慮すべき新たな潮流や社会経済情勢の変化」

「めざすまちの実現時期(概ね 30 年後)は各専門分野でどんな未来になっているか」

「以上を踏まえ、三の丸地区ではどんなまちをめざしていくべきか」

〈井澤座長〉

- ・三の丸は市民にどう開いていくかが重要。
- ・三の丸には豊かな緑があるので、それらを活かし徹底したクールダウン対策を講じて、真夏に來ても涼しく感じられる場所という特徴付けがあってもいい。

〈浦田委員〉

- ・30 年後は AI を活用した仕事が当たり前になっていて、働き方は変わり、オンラインが進むが、対面の価値は残る。
- ・知的なことを学べたり、成長できるようなイベントをやるなど、三の丸に來ないと体験できない価値が提供できると良い。
- ・三の丸に行きたくなるようなブランド化が必要。

〈加藤委員〉

- ・30 年後を見据えたときに、名古屋市は衰退前夜にあるため、この流れにどう抗うか、3 つの危機感を三の丸に落とし込みたい。
 - 1 つ目は人口減少。名古屋の付加価値創出力を高めていくためには、都心に高付加価値型の産業集積を高めることが必要。三の丸を都心と位置付けるのであれば、経済活動が備わっていることが重要。
 - 2 つ目は、交流消費をつかみ取ることが必要。そのためには MICE 機能が貢献する。
 - 3 つ目は、外の方から見たときにあこがれを持ってもらえるように城を最大限に活用すべきであり、城が見えるまちづくりを三の丸で展開していく必要がある。

〈鈴木委員〉

- ・視点や方向性など相互の関連付けをすることで、どのように進めていけばいいか見えてくる。
- ・誰を惹きつけたいか、ターゲットを明確にすると具体的にわかりやすくなる。
- ・可変性を意識しながら、できることに少しでも取り組んで人を惹きつけられると良い。
- ・中速（自転車、電動キックボード）のモビリティを取り込んだまちづくりを検討すべき。

〈羽田委員〉

- ・組織や立場を超えてこのエリアをどうしていくかをみんなで語らいながら様々な活動をし、それを発信する、例えば「三の丸町内会」などと名付けた緩やかな組織を作ってはどうか。

〈増田委員〉

- ・サステナビリティとレジリエンスは表裏一体。このような枠組みでの捉え方が大事。
- ・内外に動いていることを見せていくことは大事。ダイナミックはレジリエンスの観点でも大事な要素。
- ・前に進めようとする民の力と官が触れ合うと化学反応が起きて面白そう。

〈吉高委員〉

- ・30年後を念頭に置いたときに、我々と価値観が異なる今の若者や学生たちの世代がどこで働きたい、起業したいと魅力に感じ、そのための新たな資金や人を呼び込もうと思えることが重要。
- ・高度経済成長期は何もなかった状態で成長させてきたが、今は既存のモノがある状態で価値を創っていかないといけない。
- ・2050年はどの都市でもカーボンニュートラルを実現しているであろう。その前提で、国際的な社会情勢を踏まえて30年後を考える必要がある。